

「本物を通して・・・」

6月になり、景色は緑に囲まれた雨の季節を迎えました。晴れた日には1年生も、上級生とともに休み時間には校庭で元気に遊ぶ姿が見られます。また、ペア学年による清掃活動などで上級生が下級生にやさしく声をかける場面も見られます。年上の児童が年下の面倒をみる、年下の児童は年上を手本として憧れ学んでいく、そうした光景は見ていても微笑ましいものです。

さて、先日、3年生とともに校区内探検に行ってきました。私がついていったグループは九品寺から木津方面へ向かいました。九品寺にあるたくさんのお面を初めて見た子の表情、歴史民俗資料館では、今年の展示物である過去のおもちゃをならべる作業をしているところを見て、本物を目の前に子どもたちが目を輝かせながら話を聞いたり、実物を見たり、実物に触れたりしていた姿がとても印象的でした。

今、学校が行事や活動の中で最も重視しているのは、このような「本物を通して学ぶ」ことです。今学期は、6年生の修学旅行をはじめ、校外学習や教科における体験活動などが数多く計画されています。「直接聞く、直接見る、直接触れる」ことは児童に「生きた学び」を提供し、学ぶことで「感動」を呼び起こします。本物を通して学ぶ経験を通して、子どもたちがよりよく成長していくことを期待せずにはられません。

一方、このような経験は、家庭・地域においても重要です。以前であればあたりまえのように経験できたことが、今は経験しにくくなっています。子どもの時にできること、子どもの時にしかできないことを、機会を逃さずしっかり経験させることは私たち大人の役目かもしれません。幸いなことに、この地域では以前から共育コミュニティー（青少年育成補導連絡協議会）の方々のご協力の下いろいろな本物にふれる体験をさせていただいています。今年からは、中野上小学校もコミュニティースクールという位置づけになり、益々地域社会・学校・家庭の三者が協働して児童の健全育成に取り組むことやこの地域ならではの特色ある学校づくりを目的に進めて行きたいと考えています。

1学期の後半、子どもたちが感動とともに学ぶ姿を見守り、支援していきたいと思います。

校長 土井 安博